

日程 平成 29 年 7 月 28～31 日 (北ア) 鹿島槍ヶ岳

7/28～29 竹橋＝扇沢駅－爺ヶ岳登山口（柏原新道入口）－種池山荘（泊）

撮影者 田口



001 早朝の柏原新道

黒部ダム行きの特快バス発着場、扇沢駅を夜明けとともにスタート、爺ヶ岳登山口から柏原新道に入る。薄曇りの天候の下、ゆっくりと「モミジ坂」を登っていく。



002 石畳の道

扇沢の対岸にY字型の雪渓が望めるケルンを過ぎ、大きな岩が連続する「石畳」を通過。柏原新道はきめ細かに道標が整備され、手入れが行き届いて歩きやすい。



003 雪渓をトラバース

「水平道」という名の平坦なトラバースに入り、しばらく行くと、やがて雪渓に出会う。しっかりとした踏み跡が付けられているが、雪渓の傾斜は急で落石も目立つ。一步一步、慎重に通過する。



004 稜線手前の急登

種池山荘のある稜線に突き上げる急坂を登る。夜行バスの寝不足や疲れもあって、早く山荘に着きたいところ。「もう少しだ、もうひと踏ん張り」。路傍のゴゼンタチバナ、ベニバナイチゴ、ウサギギク、アカモノなど高山の花々が癒してくれる。



005 小雨に煙る種池山荘

樹林帯を抜け、開けた空間に出ると、辺りは、チングルマ、ミヤマキンポウゲなどが咲き乱れる一面のお花畑。その斜面を登り、まだ午前も早い時間に山荘に到着。種池山荘の池の畔には見事な花を咲かせたキヌガサソウが群生していて感激。投宿後も雨は降りやまなかった。





001 今日は期待できる？

早朝、蓮華岳、鉢ノ木岳を背に山荘の前でパチリ。山荘の窓からは雲のかかった鹿島槍ヶ岳の威容も望める。爽やかな大気に包まれ、これから出会うだろう山々の姿に期待しつつ山荘を出発。服装は天候悪化に備える。

002 美しい三角形

整った三角形の姿が印象的な爺ヶ岳南峰。明るい岩小屋谷沢岳や、山頂が雲に包まれた真砂岳などの立山連峰、剣岳に目を配りながら、緩やかな稜線を行く。



003 鹿島槍ヶ岳

爺ヶ岳の巻き道を取り、南峰、中峰、北峰を通過、冷乗越への下りに差し掛かると、鹿島槍ヶ岳の雄姿が望めた。可憐なコマクサの群落や、可愛い親子連れのライチョウにも出会えた。本日の投宿地、冷池山荘も見える。

004 ピークへ

冷池山荘に荷物を置き、サブザックにするなど軽身になり、布引山経由で鹿島槍ヶ岳をめざす。ガスのため、優美な吊り尾根は望めないが、稜線上のイワオウギ、シャクナゲ、イブキジャコウソウ、ツメクサなど数多くの花々が楽しませてくれる。



005 ピークハント！

山頂直下の急登を経て、ついに鹿島槍ヶ岳南峰に到着。曇天のもと周囲はガスに包まれ、本来なら満喫できるはずの360度の大眺望はかなわず。天候悪化懸念から北峰は断念せざるをえなかったが、昨夜来の気象条件からすれば、南峰登頂は望みうる最良の成果ともいえた。

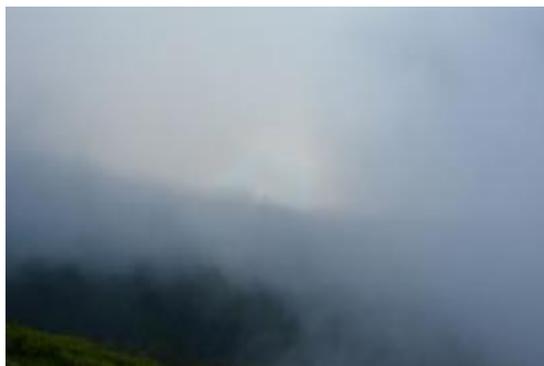


001

冷池山荘を出発、爺ヶ岳をめざし、冷乗越への急坂を登る。稜線上は西寄りの風があり、山々を包んでいるガスや雲も流されているので、絶好の眺望を期待したのだが、風も止み、再び、辺りはガスに包まれてしまった。

002 ブロッケンの怪

冷乗越手前で、東から太陽が顔を出すと、なんと、「ブロッケン現象」に遭遇。手を振るメンバーの巨大な影が虹の輪の中に見事に映し出される。束の間ことだったが、ガスと光の戯れに目を奪われる。



003 山頂でのカフェタイムならず

爺ヶ岳三峰の中で最も高い中峰。晴れていれば素晴らしい眺望の下でゆっくりお茶を、と期待していたが、ガスと冷気のため南峰に向かう。しかし、南峰も状況は変わらず、早々に種池山荘にくだることに。

004 鉢ノ木雪渓

爺ヶ岳から稜線をくだり、種池山荘への平坦な道を行く。南側が晴れ上がってきた。蓮華岳や鉢ノ木雪渓が望める。この付近まで来ると、もう鹿島槍ヶ岳の双耳峰が拝めないのは残念だが、どっしりした蓮華岳の姿に慰められる。



005 花々と快い稜線との別れを惜しむ

種池山荘でお茶タイムの後、柏原新道をくだる。雲に遮られながらも時折山頂が顔を覗かせる蓮華岳、鉢ノ木岳、岩小屋沢岳の雄姿を眺めながら、雨に濡れて滑りやすい岩に足を取られないよう気を配り慎重に歩く。雪渓で集合写真を撮るなど風景や花を楽しみつつ、ゆっくりと登山口をめざした。